

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を「感謝の気持ち・thank you、思いやりの気持ち・For you、あなたらしくを大切に・you」として各フロアーに分りやすく明示している。	○	グループホームに相応しい理念であるが、今般の制度改正に伴い地域密着型サービスの中での役割をも含めた内容にされることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員間によく浸透している。ミーティング等機会あるごとに確認しあい日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在自治会に加入していて公園の草取り、清掃、文化祭への見学参加等、地域行事には進んで参加するようにしている。小学校の廃品回収には利用者自身で紐かけをして持ち出し職員はさりげない支援をしている。近隣中学生体験学習の受け入れも行なっている。	○	今後は敬老会行事への参加、文化祭への作品出品など地域との交流機会を漸次増やす方向で取り組んでいる。地域住民に参加を呼び掛けるのホーム行事の開催などを期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義をよく理解している。改善点については、日々の業務の中、ミーティング等で話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	前回調査の改善項目「介護計画作成に本人や家族の意見や希望の引き出し」と「出来上った計画の同意状況」について引き続き工夫が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去る7月22日に第1回運営推進会議を開催した。自治会長、主治医、町役場福祉課職員、保健士、ケアマネージャー、家族代表、施設側職員で構成。運営推進会議の目的、現況報告、今後の予定を含め各出席者間で活発な意見交換が行われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>専務、管理者を窓口として町役場福祉課担当者への現状報告(地域密着・多機能性への取り組み方針など)と情報の交換を行なっている。また地域包括センターとの懇談も比較的多く持ち、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>職員は家族の訪問時に本人の暮らしぶりなど状況報告をしている。月々の請求書郵送時に預かり金状況と簡単なメッセージを同封することもある。</p>	<input type="radio"/>	<p>家族アンケートの中にはホーム及び職員に対し感謝と満足している者が多い。ただ本人の暮らしぶりや状況面で、より以上の提供を望む者も見受けられる。情報の提供方法に今一つ工夫が求められる。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は家族の面会時に意見等を聞きだすように努めている。また玄関横に目安箱(ご意見箱)を設置しているが今までに投函はない。個々の要望については記録ミーティング時に全員で検討している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット毎に職員を固定化し異動は極力避けている。やむを得ない場合には利用者によく説明をしてダメージの無いようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員の育成を重要視していて外部研修案内を基に指名や希望を募り受講の機会を与えている。受講後はレポート回覧、勉強会等で全員に伝え業務に活かしている。職員の中には「日本認知症ケア専門士講座」の受講者もいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括センターの開催する連絡会、三重県グループホーム連絡協議会等に積極的に参加し同業者との交流、情報交換を通じサービスの質の向上に活かしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	今後は空室を利用し宿泊を入れた取組も行なう方針でいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	計画作成時に本人・家族からの希望や意見の引き出しと、作成後の説明方法に工夫が望まれる。(前問、自己評価NO14・家族への報告)と同様。
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力を得る事もあるが、利用者全員での一泊旅行や故郷訪問、病院通い、将棋が趣味の利用者を会場へ連れて行くなど本人のニーズにあわせて職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師に週2回の往診を受け健康管理に努めている。また何時でも気軽に相談・指導を得る事が出来る。入院が必要な場合にも協力医師を通じての体制が出来ている。歯科医療についても近隣の歯科医院に連れて行く用意はある。	○	事業者は今後、歯科医院についても協力を依頼する方向で考えている。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設時に1名、今年1名、家族の希望や医師に相談しながら職員全員協力して終の看取りを行なった。今後も関係者と相談のうえ終末期における取組みしていく方針である。	○	事業者は終末期における家族から延命治療の内容について希望を聞き、ホームとしてその基準の作成を考えている。事前に家族とよく話し合い方針の統一を図っておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、ホームの理念(感謝の気持ち・思いやり・あなたらしく)を共有していて言葉かけや対応は、ゆったりと非常に穏やかである。個人情報の取り扱いも的確に周知徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物は日常的に、また季節毎に花見、催しへの見学と参加、生け花、ミニ卓球、将棋、外食・喫茶など利用者の希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事作り委員会」を設置しており利用者の要望・内容を吟味、水分摂取にも充分気配りをしている。毎月10日、20日にカロリー計算を行なっている。外食や季節食も取り入れ食欲低下を予防している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく換気も良い。浴室、トイレ、洗面所も利用し易い所にあり、居間兼食堂および台所には家庭的な生活用品が置かれ、また花壇やベランダでは季節の花を楽しむなど居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のエアコンと押入は備付。ベッド、衣装ケース、机、など使い慣れた物を持ち込み趣味用品、絵、写真で装飾するなど本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。		